

看護実践・キャリア 支援センター通信

2023年
4月

看護基礎教育

看護学生へのキャリアデザインプログラム

Vol.25



11月9日、看護学科の4年生を対象に、看護学生へのキャリアデザインプログラムとして附属病院で活躍する4人の看護師からそれぞれの分野から見た看護についての話を聞きました。クリティカル領域看護師、Covid-19専用病棟のチーム活動、特定看護師、手術看護認定看護師という、それぞれの領域ならではの思いや努力が語られました。その中で「患者にとって何が幸せか」を考える熱い思いが共通していることが印象的でした。

4年生からは、「思いに感動した」「将来の自分を考える上で参考になった」という意見が多く聞かれました。

看護実践事業 対人関係の心理学 入門編



奥田淳先生

本学 医学部看護学科精神看護学 准教授 奥田 淳先生を講師に迎え、対人関係で活用できる心理学の知識・技術を習得するための講義・演習を行いました。2022年10～12月の隔週木曜日の全5回（1回80分）のコースに19名が受講しました。研修はマンガの内容を分析したり、グループワークをすることで、親しみながらより深い理論に触れることができるもので、「ジョハリの窓」や認知再構成法、アドラー心理学など様々な理論を活用して分析する方法を学びました。受講者も改めて自分を見つめ直す機会になり、関わりの難しい人との関係の取り方に知的なエッセンスが加わり、少し肩の荷が下り心が軽くなる研修でした。



相手から見える自分とは？

地域貢献事業

明日から使えるCVポートの基礎知識と管理方法

12月10日(土)に、中央放射線部で勤務する特定看護師の兒玉佐和先生を講師に迎え大道看護師に協力頂き、実践的なCVポート管理研修を行いました。CVポート管理の基本の講義を受けた後、実際に使っている器具だけでなく、エコーを用いたPICCの演習も放射線診断・IVR学講座の前田新作先生と業者様(東レメディカル、メディコン)の指導のもとで行うことができる充実した内容でした。この研修には実施前から多くの問い合わせがある等需要の高さが伺えました。来年度も同様に実施しご要望にお応えしたいと考えています。



先生方と業者様のご協力で充実した演習に

看護実践教育 実習指導者・看護学科教員合同研修



研修参加者が意見を出し合い考える

1月6日(金)に、昨年度の上級臨床指導者育成プログラム受講者の企画・運営により、「悩める指導者・教員いらっしゃい!!～自分のいいところ知ってます?～」というテーマで実習指導者・看護学科教員の合同研修を開催しました。45名が参加し、Z世代への教育での課題と対応について話し合いました。自身の指導のあり方を振り返る機会にもなり、お互いの指導について承認し合うことで、これからの教育・指導の課題について考えることができました。

自分を分析して見つめ直す

地域貢献事業 特定看護師の実践活動を考える

1月21日(土)に特定行為実践報告会を開催し、奈良医大の特定行為研修修了生3名に現場での実践を語っていただきました。「特定行為」をより早く行えることで患者の苦痛を減らすことができたり、より専門的な視点から患者と医師等の他職種とのかけはしになったりと、具体的に活躍の場が見えてくることで、特定行為研修を修了した人もまだの人もモチベーションが上がったようです。

講師以外の修了生からも積極的に意見が出て、「特定行為」を看護や医療の現場で役立てたいという熱意を感じる事ができました。



深松竜也さん
(慢性期・在宅
コース2期生)



小橋郁美さん
(急性期コース
3期生)



寺川由希子さん
(慢性期・在宅
コース3期生)



附属病院以外からも多くの参加をいただきました

看護学科学生へのキャリアデザインプログラム Teamsによるリモート交流会

2月20日(水)、就職活動前の本学の看護学科3年生対象に、若手看護師との交流会を行いました。昨年同様新型コロナウイルスの感染予防対策とし Teams を用いたリモートでの開催となり、16名が



部署から9名の若手看護師が参加

参加しました。新人教育体制などについて説明を聞いた後、希望する部署の看護師と40分×3回の交流を行いました。若手看護師からは「1年目は踏ん張って、2年目は視野が広がって、3年目は1年目ナースと成長する」等、経験を元にした様々なアドバイスがあり、学生からは「実際の現場のイメージが持てた」「働く科を選択しやすくなった」という感想が聞かれました。この交流会をきっかけに奈良医大附属病院に魅力を感じていただき、就職先として積極的に検討してもらえればと思います。



特定行為研修成果発表会



自宅や自施設から参加



画面で顔が見えることで、意見が出やすい雰囲気になりました

3月1日(水)、今年度の特定行為研修の研修生15名による成果発表会をオンライン形式(Teams利用)で行い、院内外から50名を超える参加がありました。

特定行為研修では専門的な知識の取得だけでなく、臨床の実習があります。研修生からは1年間の研修で学んだことや成果、今後の展望についてまとめた発表がありました。発表後の意見交換も活発に行われ、出席者のこの研修に対する関心が伺えました。研修生からは「それぞれの成長を感じることができ、自施設でこれから進んでいこうという気持ちは同じで頑張ろうと思った」という意見も聞かれ、お互いの発表が刺激になったようです。

看護基礎教育・看護実践教育

上級臨床指導者育成プログラム受講者・特定行為研修受講者伝達講習

3月23日(木)、院内看護職者を対象に上級臨床指導者育成プログラム受講者と院内の特定行為研修受講者の伝達講習を日本看護協会の認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)の受講者とともに開催しました。

上級臨床指導者育成プログラム受講生は、1年間をかけて「伝える研修」を企画・運営する方法やそれぞれの専門分野について学んだことを、特定行為研修受講者は研修での学びや今後の展望について発表しました。参加者からは、「研修受講者が何を大事にしているかが伝わってきた」という意見が聞かれました。



3年ぶりの対面での実施に59名が参加しました

上級臨床指導者育成プログラム 修了証授与式



左から修了者 甲斐剛志(C6)、東 由加子(E5)
橋口看護部長、富谷奈都季(B8)、柘田仁美(E4)

3月23日(木)、今年度の上級臨床指導者育成プログラムを修了した4名に対し、修了証が授与されました。

このプログラムは、教育的役割を果たせるための知識・技術・態度を備え、学びを支援できる上級臨床指導者を育成するものです。大学・看護協会・院内現任教育の様々な研修を経て、「伝える」ために何が必要なのかを学び、考え、仲間と共に実践したこの1年で得たものを今後の看護教育に活かして欲しいと思います。

看護部長から修了書授与



特定行為研修 閉講式

3月23日(木)、看護師特定行為研修の閉講式が行われました。

今年度は急性期コース4名、慢性期・在宅コース8名、選択コース(PICC・血糖)3名が研修を無事修了しました。

病院長からは修了生1人1人への修了証の授与と挨拶を、川口教授からは訓示をいただきました。

臨床では、この研修の修了生達が活躍する機会が増え、「特定看護師」

に対する期待が年々高まっています。今年度の修了生の皆さんの今後に期待いたします。



修了生と研修でお世話になった方々

【急性期コース修了生より】

(急性期コース7期生 林 愛希仁)

近年、看護の対象者は単一疾患と限らず、マルチモビディティ患者が増えています。教科書通りのケアは併存疾患の悪化を招く恐れもあり、個別的なオーダーメイド医療が必要となります。私は慢性心不全看護認定看護師として看護実践し、心疾患と共に様々な併存疾患を抱える患者に対してのケアに難しさを感じ、より正確に、よりタイムリーにケアを提供したい。そして急性期も慢性期も終末期も連続性あるケアを提供したいと考え特定行為研修を受講しました。研修中は、特定行為の手技はもちろんのこと、病態把握の仕方や検査画像所見の読み方、医療機器の操作方法、治療方針の考え方等、特定行為研修を受講しないと学べない貴重な経験をさせていただきました。そして特定行為研修で得た知識や技術を持ち帰った今、病状の変化を報告するだけでなく、異常の原因検索し対処方法を医師と共有、そしてスタッフとも対策を立てている自分がいます。特定看護師に期待されるチーム医療の推進は、特定行為を実践する以上に周囲と協働し医療の質を高めることにあると感じています。より良い医療が組織的に提供できる様日々精進していきます。



【慢性期・在宅コース修了生より】

(慢性期・在宅コース5期生 島 勝江)

私が従事している在宅医療の現場では、地域包括ケアシステムの推進により医療依存度の高い利用者が年々増加傾向にあり、訪問看護の需要も増加しています。しかし、24時間対応可能な在宅医が不足している事や、特定行為看護師研修の修了者がほとんどいないことから、利用者の状態変化に対して迅速な対応ができず、再入院を余儀なくしてしまうケースが少なくありません。

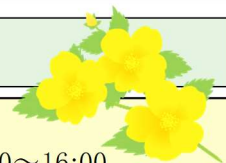


このような在宅医療の現場において、特定行為看護師研修で学んだ医学的視点と看護学的視点を融合したアセスメント力で利用者の状態を迅速に見極め、在宅医との連携により手順書に沿った安全かつ適切な特定行為を実践することで、医療依存度の高い利用者の再入院を減らしたいと考えています。

医療依存度の高い利用者が、住み慣れた地域で一日でも長く過ごしていただけるよう、訪問看護全体の質の向上を図ることで、地域包括ケアシステムの推進に寄与していきたいと考えています。

今年度の研修生を受け入れて頂いた研修施設の指導者・関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後のセンター事業



【地域貢献事業】

☆災害医療のキホンのキ

日時:6月10日(土)10:00~16:00

☆どうしたらいいの?フットケア~浮腫のある足、傷のある足~日時:8月5日(土)10:00~16:00

発行元: 公立大学法人奈良県立医科大学 看護実践・キャリア支援センター (Tel.0744-22-3051 内線 2184)